

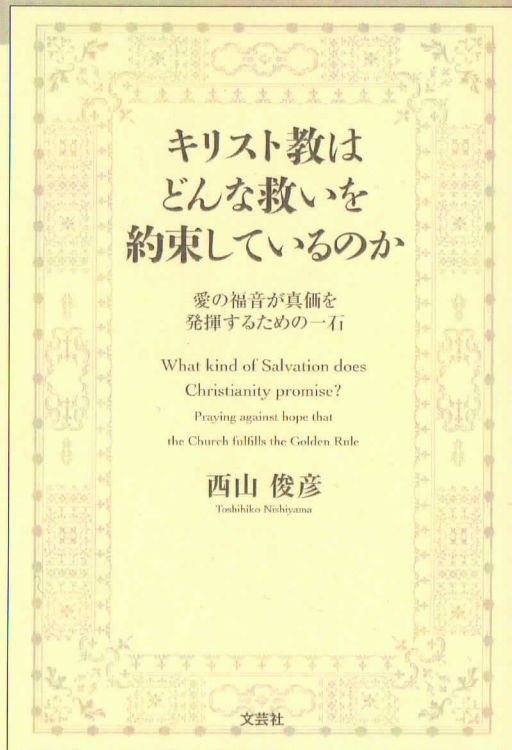
●文芸社2月の新刊●

キリスト教はどんな救いを 約束しているのか

愛の福音が真価を発揮するための一石

西山 俊彦

Toshihiko Nishiyama



【表紙画像】

「真理は真理そのものの力による 以外の義務を負わせない」

(第二バチカン公会議「信教の自由に関する宣言」冒頭、1965年)

「救い」とは何か。「永遠の生命」とは何か。宗教が約束するのは現世のものか、来世のものか。キリスト者が、福音の光と良心に照らし、痛みと自省を込めて、宗教が進むべき道を模索した、渾身の一冊!

キリスト教は、一体「人皆神の子」「互いに兄弟」…… 「敵をも愛せよ」の福音を説いてきたといえるだろうか?

普遍的愛の御教えを値切りに値切り、世俗権力への妥協に妥協を重ねてきた結果が悲惨極まる内外世界の現況であるとするれば、キリスト教が、まず歴史的罪過を謝罪し、福音の真価を発揮するのが道理です。それを、世上の利己主義、国家主義、資本主義の暴挙と決めつけ責任転嫁を恣にするとは、宗教家としての良心にも恥じらいにも欠けると思われますが、これを指摘し、忠告する識者はありません。

四六判・上製・480頁 定価(本体1900円+税)

注文書

書店印

注文 冊

新刊

文芸社

西山俊彦著

キリスト教はどんな救いを
約束しているのか

愛の福音が真価を発揮するための一石

ISBN978-4-286-17751-9 C0014 ¥1900E

定価

(本体1,900円+税)